

技術・家庭科学習指導案

平成〇〇年〇月〇日（〇）第〇校時
指導学級・人数・場所 第〇学年〇組 〇人 〇室
指導者 教諭 田崎 祥子

- 1 題材名「深め、つなげ、広げよう 技術・家庭科」～ガイダンス～ 【1時間扱い】
家庭分野A 自分の成長と家族(1)ア

2 題材設定の理由

(1) 生徒観

県内の小学校1校、中学校2校、高等学校2校にアンケートをとった結果「家庭科の授業が楽しみである」と答えたのは、小6で68%、中1では91.8%であった。この数字からも、入学を機に生徒が中学校の家庭科の学習に期待を寄せていることがわかる。さらに、食生活の授業については、小6で72%、中1で94.5%が楽しみであると答えており、年代を問わず調理実習をはじめとした授業内容への興味・関心の高さを表している。

また、「これからの中学校の家庭科の授業（食に関すること）で、できるようになりたいことはどんなことですか」という問いに対しては、「一人で栄養バランスや食材について詳しく言えるようになりたい」「5大栄養素と用具の名称が言えないからそれを覚えたい」といった知識面での充実を求めるものや、「小学校のころはゆでる時になんでも強火にしていたので、場合によって変えたい」「今までは一食分の献立しか作ることがないので、3食きちんと見た目も栄養バランスもバッチリな食事を考え作ってみたい」など、技能の向上を期待する様子もうかがえる。しかし、一方で「これからの中学校の家庭科の授業（食に関すること）を受けるのに不安なことや心配なことはどんなことですか」に対しては、「班に迷惑をかけないようにできるか心配」「自分が調理する時に自分のとっている行動は正しいのか」「決まった班で協力してできるか心配」など、知識や技能とは別に、中学校の新たな環境や仲間の中で周囲とうまくやっていけるかという不安を抱いているものがあることもわかってきた。

正しい知識の習得と達成感を持たせる経験を積ませるとともに、個に配慮したグループワークや習熟度に応じた学習形態を取り入れるなどの工夫が、今まで以上に必要とされる状況であると考える。

(2) 題材観

新しい学習指導要領では学習を体系的に行う視点から、内容のAの(1)「自分の成長と家族」に小学校家庭科の学習を踏まえた家庭分野のガイダンス的な内容を設定し、3学年間の学習の見通しをもたせるために第1学年の最初に履修させることとしている。

本題材では、小学校の家庭科教諭と連携を図り、小学校の5・6年生で学んできた家庭科の内容を1枚のワークシートにまとめ、中学校に持ち上がるという新たな試みを取り入れている。一人ひとりの学習の履歴や家庭生活における役割などが記録されており、小学校2学年間の成長を実感できるものとなっている。中学校第1学年の最初の授業で、このワークシートを改めて活用することで、小学校家庭科の学習を振り返るとともに、できるようになったことを確認し、そのことから自信を持たせ、中学校の学習への期待をさらに高める手立てとなる。

また、それらを土台として中学校の家庭科の学習、さらには高等学校の学習や将来的な自立につながっていく道筋を捉えさせ、見通しをもたせることができる。さらに、他の小学校から入学してきたクラスの仲間に小学校時代に学んできたことを紹介し、中学校の家庭科で学んでいきたいことや身に付けたいことを伝え合う場面を設け、互いに認め励まし合い意欲的に授業

に臨む姿勢をはぐくむこともねらいとし本題材を設定した。

(3) 指導観

小学校からのワークシートには、2年間の家庭科の学習を通してできるようになったことを随時書き込んである。そこで、記入してあるものを整理しながら中学校の学習内容との体系化を図り活用していきたい。これは、既習内容とこれから3年間の学習をつなげるとともに、見通しをもたせることをねらいとしている。

また、次時より食生活の授業を始めることも考え、グループ内の発表では、食生活の内容にしぼって伝え合う活動とする。3年後の自分をイメージするだけでなくこれからともに学び合う仲間との関わりに期待をもって臨むための機会としたい。

さらに、中学校編のワークシートを続けて記入していくことで学びの深まりやつながりを確認したり、記録を蓄積していくことが自信や将来に向けての展望にもつながっていくことに気付かせるようにしたい。自己肯定感が他者との関わりにもプラスの効果をもたらすことができるよう、言葉かけを工夫したい。

3 題材の目標

小学校での学習を振り返り、中学校3学年間の学習について見通しをもつことができる。

4 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
3学年間の学習に見通しをもち、自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて関心をもって学習活動に取り組もうとしている。			

5 指導計画及び評価計画（1時間扱い）

「深め、つなげ、広げよう 技術・家庭科」～ガイダンス～ 【本時 1時間扱い】

6 本時の学習指導

(1) 本時の目標

小学校の学習を振り返りながら自己を見つめ、3学年間の学習について見通しをもつことができる。

(2) 展開

学習内容	学習活動	時間	教師の働きかけ	評価と指導の工夫 【】評価の観点 〈〉評価方法 ○評価規準
導入	<ul style="list-style-type: none"> 小学校家庭科の調理実習で作った料理や、布を用いた作品の写真を見て、当時の様子を振り返る。 小学校家庭科2年間で 	10	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の家庭科担当の教師から、実際に授業で扱った題材の調理品や、ミシン縫いで製作した作品の写真などを預かり、それらを提示する。 ワークシートは、小学校から教師 	

	記録した「家庭科学習カード」で学習内容や身についてたことを確認する。		が預かっておき配布するか、小学校から中学校へ持ちあがって使用することをあらかじめ指導してもらい、本時に持参させる。	
学習課題の設定	学習課題：技術・家庭科（家庭分野）の学習について知り、見通しをもとう。			
小学校の学習や家庭生活の振り返り	・小学校で学習してきたことや家庭で行っているお手伝いと、これから中学校3年間の家庭分野で学習する内容とのつながりを確認する。	10	・ワークシートに記述してあることを発表させ、中学校3年間の学習内容と関連させながら紹介する。 「小学校家庭、中学校技術・家庭の内容一覧」(中学校学習指導要領解説 技術・家庭編 P70)に基づいて行う。 ・3年間で学習することを、具体的にイメージし、見通しが持てるよう、写真や製作物なども見せる。	【関・意・態】 〈観察・ワークシート〉 ○小学校の学習を振り返りながら自己を見つめ、3学年間の学習について見通しをもとうとしている。
3学年間の学習の見通し				
自己評価	・ワークシートに、小学校で学んだことや家庭のお手伝いで身につけて得意なことと中学校の授業で助けて欲しいこと(自信のないこと)を記入する。	10	・記入後に内容を伝え合うことや、そのねらいを知らせておくことで、安心して発表ができるよう配慮する。 ・これまで一人ひとりが培ってきたものが自信となり、意欲的に授業に臨む姿勢につながるよう、記述内容を工夫させる。 ・苦手な部分を互いに開示することで、これから助け合い、励まし合って学習するための雰囲気づくりに生かす。	
発表	・実習班のメンバーで、ワークシートの内容を発表し合う。	8	・次時から始まる食生活の学習についての内容にしぼって発表させる。 ・互いに共感的な姿勢で発表が聞けるよう、声をかける。	
技術・家庭科（家庭分野）のねらい	・例として示された3つの家庭について考える。 ・授業の中で大切にしていきたいことや、自分のめあて等について考える。	7	・家族や家庭生活にはさまざまなスタイルがあり、協力して家族関係をよりよくしていくことはどの家庭についても同じであることに気づかせる。 ・家庭分野の学習を通して、どのような力をつけて欲しいのか、また	

<p>自分のめあてまとめ</p>	<p>・メンバーの発表や、教師からの話を聞き、これからの自分の学習のめあてをワークシートに記入し発表する。</p>	<p>5</p>	<p>互いに家族や家庭生活について安心して考え伝え合っていける雰囲気を作れるよう、ねらいや学習意図を知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に伴う安全、衛生に関わる事項について触れ、注意を促す。 ・数名の生徒に発表させ、これからの学習への意欲を喚起する。 ・ワークシートの記述内容から、本時のねらいが達成できたか確認する。 	
------------------	---	----------	--	--

〈資料；展開の中で示す3つの家族の例〉

家族①

私の家庭は父が会社で働き、母は専業主婦として家事を主に行っています。いつもおいしいご飯を作ってもらい、お掃除が行き届いた家に帰ってこられるのは、母のお陰と父も私もとても感謝しています。でも、なんでも母まかせになっており、父も私も家庭の仕事がほとんどできません。もし母が病気にでもなったら、大変です！

家族②

ぼくの家庭は父が単身赴任で離れて住んでいます。母も昼間働いており、ぼくが学校から帰ってくるのと同じ時間に学童保育から弟たちを連れて帰ってきます。帰宅後は朝の食事の片付けや夕飯の支度、お風呂の準備、洗濯物の取り込みなど、みんなで協力しながら行います。ぼくが夕飯を作ることもあります！

家族③

私の家には寝たきりで介護の必要な祖母がいます。ヘルパーさんやご近所の方に助けてもらうこともあります。おばあちゃんのお世話はおもに母が行っています。それなので家族そろっての旅行も難しいです。休日は父も介護を行います。姉はそんな様子を見ながら進路を考え、今年からヘルパーの資格をとるための専門学校に通っています。

こんなに成長したよ!

名前【

中学校でがんばりたいこと



家庭・地域のために
自分ができることを
実践するよ!

つなげよう! 中学校 技術・家庭科

2年後こんな私になっていたいな

成長した自分を振り返り、感謝しよう

中学校



2年後の私
(6年生3月)



小学校6年



小学校5年



今の私
(5年生4月)



小学校



幼稚園・保育園

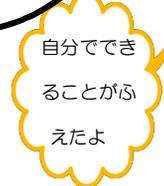
Large graphic area containing multiple circles and ovals for writing reflections and goals.



家族の一員
として生活を
工夫できるよう
になってきたよ



いろいろ
なことに
挑戦中!



自分で
できることが
ふえたよ

4年生までの学習の中に
家庭科で使えるものは
ないかな



もうすぐ小学生だ!
自分のことは自分で
やるぞ!!



○の中にできるように
なったことを記入したらふちどりを
次の色でぬり分けてみよう。

- ☆家庭生活と家族…黄緑色
- ☆日常の食事と調理の基礎…ピンク色
- ☆身近な消費生活と環境…青
- ☆快適な衣服と住まい
- 衣服製作(手縫いやミシン縫い)……水色
- 住まいの片づけやそうじ……………おろ色
- 家庭の仕事・快適な住まい方や着方…緑色



小学校5・6年生の家庭科の授業で学んだことや、家庭で身につけたことを中学校につなげよう！

小学校	6年	組()番	氏名
中学校	1年	組()番	
	2年	組()番	
	3年	組()番	

		小学校でできるようになったこと			中学校1年生	中学校2年生	中学校3年生
家族	家庭生活と	授業で		家族・家庭と 子どもの成長			
	家庭で						
調理の基礎	日常の食事と	授業で		食生活と 自立			
	家庭で						
住まい	快適な衣服と	授業で		衣生活・ 住生活と自立			
	家庭で						
身近な消費生活と環境	身近な消費生活	授業で		身近な消費生活 と環境			
	家庭で						

5年間の家庭科の授業が終わりです。中学校卒業後、その学びを生かすため、
 あなたが続けてきた「ことば」を大切にしてください。